



Title	中国のコミュニティにおける権利保護と市民運動：はしがき
Author(s)	今井, 弘道
Description	シンポジウム
Citation	北大法学論集, 58(4), 233 [1861]-235 [1863]
Issue Date	2007-11-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30244
Type	departmental bulletin paper
File Information	58(4)_233-235.pdf



中国のコミュニティにおける権利保護と市民運動

はしがき

(一) 中国のコミュニティにおける権利保護と市民運動

(二) 中国の住宅小区を取り巻くアクターの役割及び関係

今井弘道
倪正茂
(李妍淑訳)
伊藤和歌子

はしがき

今井 弘道

以下で掲載するのは、本年二月五日に北海道大学大学院法学研究科付属高等法政教育研究センター主催で行われたワーク・シヨップ「中国のコミュニティにおける権利保護と市民運動」における倪正茂教授（上海政法学院）の講演「中国のコミュニティにおける権利保護と市民運動」及び同時に行われた伊藤和歌子氏（法政大学大学院社会科学研究科政治学専攻博士課程）の報告「中国の住宅小区を取り巻くアクターの役割及び関係」の全文である。

倪教授の専攻は、法哲学であり、近年は、「生命倫理」や中国の「少数民族」研究を手がけるほか、「法律戦争論」と言った新しい領域を開拓しておられるが、中国では著名な、長老クラスの法哲学者の一人である。と同時に、倪教授自身が住んでおられる住区をめぐる紛争の中では、住区（倪教授の講演の翻訳ではコミュニティの訳語が用いられているが、伊藤報告で用いられている言葉で言えば「住宅小区」）の指導者として運動の前面に立たれた。そして、この運動のリーダーとしても、中国全土において極めて著名な存在でもある。

そこで、この倪教授が名古屋大学の客員教授としての来日の機会を捉えて、ここ一〇年来の友人としてお付き合いをしている私が特にお願いをし、中国の市民運動を理解するためのひとつのモデル・ケースとして、倪教授が直接に関

わられた市民運動がどのような性格のものなのか、それが現代中国の方向性をどのようなものとして示唆しているのかを、日本人にも具体的に理解できるような形で講演いただけないかとお願いしてご快諾下さった。それが、このワーク・ショップとして結実したわけである。

講演内容は詳細をきわめており、私が付け加えることは何もない。ただ、この講演記録を見ればわかることであるが、倪教授が最後に「アレクシス・ド・トクヴィル (Alexis de Tocqueville) は、「アメリカにおける民主の根源は、コミュニティの自治である」と指摘している。独立、自治と有権は、アメリカのコミュニティが一般的に有しているものである。中国の都市部の住宅団地における人口は、アメリカのコミュニティとほぼ同じであり、コミュニティの性質も類似しているため、アレクシス・ド・トクヴィルの観点は、中国における民主への展望と市民社会の形成に重要な示唆を与えるだろう」といわれたことには、ある深い感銘を受けたということだけを言っておこう。

なお、伊藤報告は、まさしく倪教授が直接コミットし、また法哲学者の観点から理論的反省をしておられるこの問題を、政治学の観点から研究している若手研究者がいるという情報を得たので、倪正茂報告についての背景的事情を知るために、また当日の議論をより深く活発なものにするために、特にお願したものである。